スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

【大分県豊後大野市】
令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	大分県豊後大野市
担当課名	学校教育課
電話番号	０９７４－２２－１００１

１．自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

人口	３２９１０人	部活動数	４１部活
公立中学校数	７校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	７３４人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

豊後大野市の運動部活動の現状

小中一貫教育校設置により全町に中学校存続の中、生徒数減少による部活動の廃止が加速。

①生徒数の減少（向こう１０年で約１０％の減）

②専門性、指導経験の少ない顧問

↓

学校と地域のニーズを踏まえた総合型地域スポーツクラブの検討

↓

朝地フレンドクラブを中心に移行研究

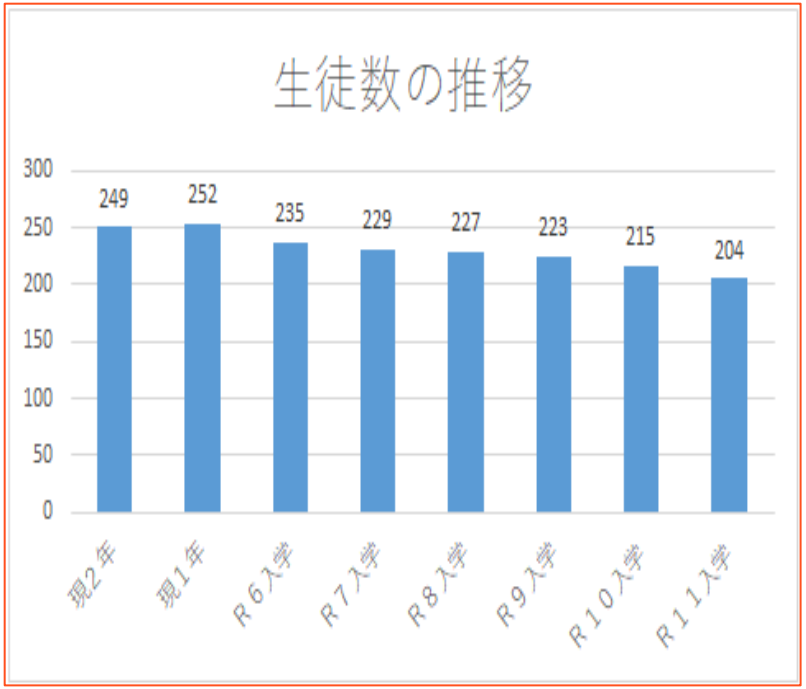
地域移行における豊後大野市の課題

①地域での受け皿確保

②指導者がいない

③中体連出場のための細則への対応

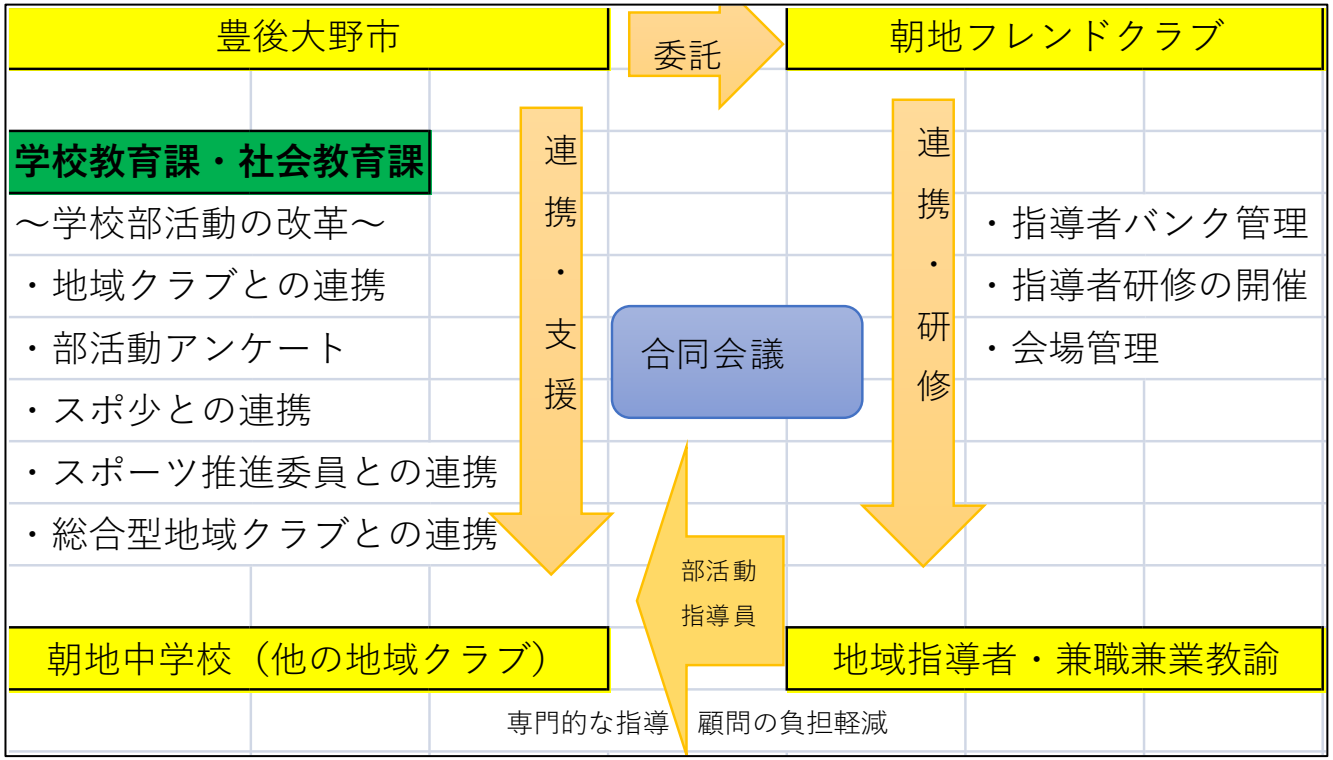
④受益者負担の増加



2．実証内容と成果

運営体制･役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（学校教育課）
  - 地域クラブとの連携
  - 協議会の開催
  - 内部検討委員会の開催
  - 学校との連携、連絡調整
- 教育委員会（社会教育課）
  - スポーツ推進委員との連携
  - スポ少との連携
  - ２年後の地域クラブ化に向けての準備

年間の事業スケジュール

・内部検討委員会（５月･９月･２月）
・教職員への地域移行に向けた方針の周知（８月）
・スポーツ少年団関係者への周知（１１月）
・子どものスポーツ環境のあり方を検討する協議会（６月･１１月）の実施
・保護者への地域移行についての周知（１０月）
・顧問、スポ少指導者との協議（１２月以降）

2．実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

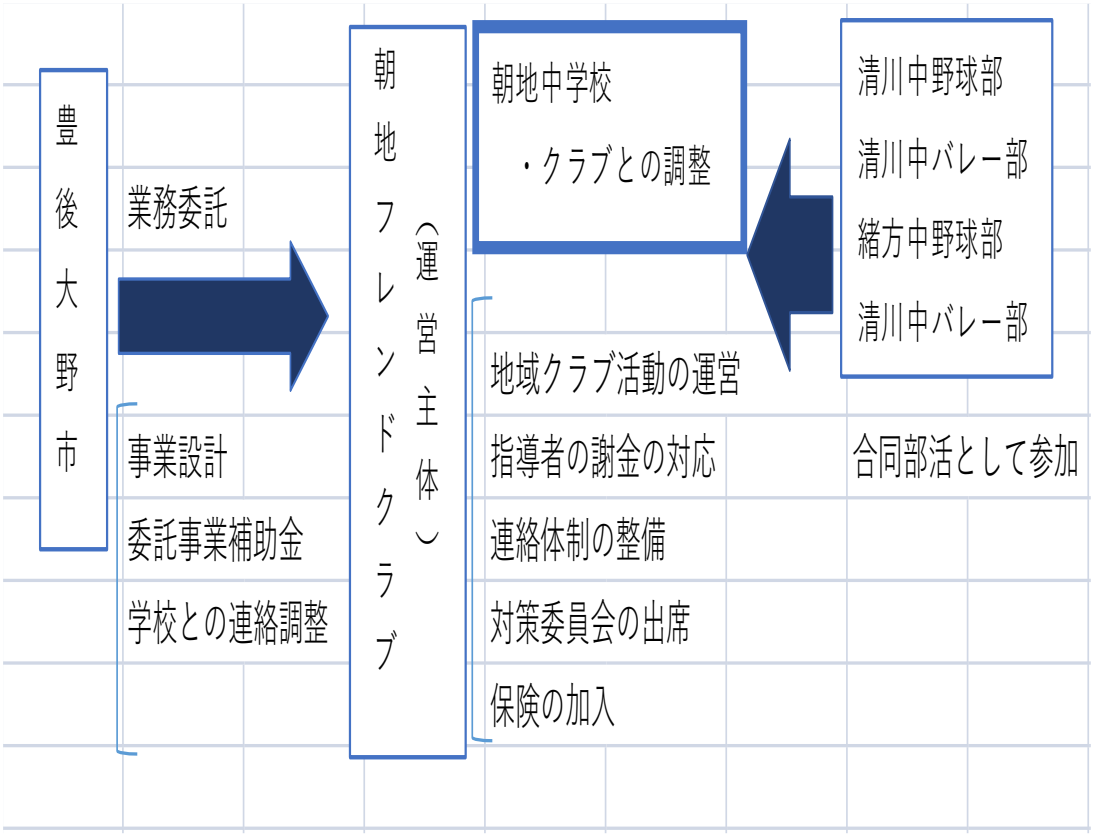
拠点校数	１校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	野球･剣道･女子バレー･卓球
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	４部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	朝地中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	４部活動
地域クラブ活動で実施した種目	野球･剣道･女子バレー･卓球
運営主体名	朝地フレンドクラブ
運営類型	地域スポーツ団体等運営型（総合型値域スポーツクラブ運営型）
１か月あたりの平均的な活動回数	野球：月２０回程度，剣道：月１２回程度 バレー：月８回程度、卓球：月８回程度
指導者の主な属性	地域クラブ指導者、兼職兼業
活動場所	学校、市施設
主な移動手段	徒歩、保護者輸送
１人あたりの参加会費等（年額）	２０００円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2．実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ア．関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項	・総括コーディネーターをクラブにおき、市の他のクラブとの会議や市教委・学校との連絡調整を行う。また、予算の会計処理を行う。
取組の成果	・総括コーディネーターを配置することができ、市教委や学校との連絡調整を行うことができた。また、予算の会計処理業務を行うことができた。
特に工夫した事項	・朝地中学校指導者・顧問連携会議を年４回開催し、現状把握や情報共有することができた。 ○４月２０日：第１回指導者・顧問会議 ・今年度の活動について　等 ○７月１２日：第２回指導者・顧問会議 ・夏季休業中の練習計画について　等 ○１２月２０日：第３回指導者・顧問会議 ・冬季休業中の練習について　等 ○３月１３日：第４回指導者・顧問会議 ・１年間の総括　等
今後の課題と対応方針	・コーディネーターが次年度も引き続き配置できるよう働きかけを行っていく。 ・地域移行に向けての共通理解を図っていく。

2．実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項	・指導者の確保に、市教委、総括コーディネーターを中心に努める。
取組の成果	・指導者のいない野球部については、兼職兼業で教職員を地域クラブ指導者とすることができた。 ・指導者のいなかったバレー部についても、スポーツ少年団の指導者が、引き受けてくれるようになった。 軟式野球：兼職兼業１名 女子バレー：フレンドクラブの指導者２名
特に工夫した事項	・地域クラブと部活動と並行して活動しているが、部活動担当とクラブ指導者との情報共有を持つ場を設定することができた。
今後の課題と対応方針	・兼職兼業の教職員は、異動の可能性があるため、さらなる指導者の確保が必要である。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項	・市教委と総括コーディネーターが連携し、部活動の地域移行をすすめる協議会を立ち上げ運営する。
取組の成果	・総合型地域スポーツクラブ関係者、スポーツ推進委員、学校関係者等による、「豊後大野市の子どものスポーツ環境のあり方を検討する協議会」を年２回開催し地域移行についての周知や情報共有ができた。 ・スポーツ少年団関係者へ、地域移行についての説明・周知するための会議を実施しすることができた。 ６月２９日：第１回豊後大野市の子どものスポーツ環境のあり方を検討する協議会 １０月１０日：スポーツ少年団関係者への説明会 １１月２４日：第２回豊後大野市の子どものスポーツ環境のあり方を検討する協議会
特に工夫した事項	・第１回の協議会を行い、協議会委員について吟味する話題が出され、急遽スポーツ少年団関係者への説明の場を持った。
今後の課題と対応方針	・協議会の構成メンバーを再度検討していく必要がある。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項	・地域移行について、協議会で推進していく。単独部活動の移行が厳しい場合は、合同部活動（拠点校部活動）よりの移行をめざす。
取組の成果	・軟式野球において、企業を受け皿としたクラブチームができた。また、地域移行に向けての合同部活動（３校合同）も誕生した。 ・社会体育のクラブチームが、市が許可するクラブチームへとＲ６より移行予定。 地域クラブ 軟式野球：「豊後大野ネクサス」 サッカー：「ＦＣ　ＳＦＩＤＡ２００７」 合同部活動 軟式野球「緒方・朝地・清川」 女子バレー「緒方・朝地・清川」
特に工夫した事項	・スポーツ少年団や社会体育の競技別関係者への説明を少しずつ始めてることができた。まだ、クラブ化に向けての課題があるが、少しずつ課題を解決しながら進めていく。
今後の課題と対応方針	・社会体育等、競技により地域クラブ化できそうな部活動へのアプローチを進めていく必要がある。 ・受け皿及び指導者の確保が課題。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項	・研究校の取り組みをもとに、受益者負担についても研究していく。
取組の成果	・今年度のコーディネーター配置は、年度途中だったが、業務内容や頻度についての確認ができた。指導者謝金状況を含めて、今後検討していきたい。
特に工夫した事項	・学校と連携をとり、施設利用料０となるように調整した。
今後の課題と対応方針	・活動頻度及び指導者数による徴収額の検討が必要。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項	・学校施設については、スポーツ少年団登録により減免できる体制を整える。
取組の成果	・スポーツ少年団登録により減免できるように体制を整えた。
特に工夫した事項	・特になし
今後の課題と対応方針	・地域移行した場合の、学校施設の利用を検討していく。 ・市が認めた地域クラブにおいても減免していく方向で進めていく。

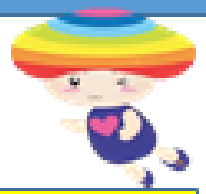
2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

R5　豊後大野市(運動)部活動改革方針

基本方針　①生徒への運動機会の保障
②平日及び休日の部活動の段階的な地域移行



豊後大野市の運動部活動の課題
1　生徒数の減少
2　専門性や指導経験の少ない

→ 地域のスポーツクラブ →

効果：○小・中学校と系統的な指導
○専門的な指導
課題：▲地域での受け皿確保
▲クラブと部活の関係

今年度の流れ

	4月～8月	9月～12月	1月～3月
市教委	第1回内部検討委員会5月	第2回内部検討委員会　9月	第3回内部検討委員会　2月
市教委	第1回　豊後大野市の子どものスポーツ環境のあり方を検討する協議会　6月	スポ少への周知・検討	第2回　豊後大野市の子どものスポーツ環境のあり方を検討する協議会　11月
市教委	朝地地区を中心に移行研究継続推進		
学校	合同部活動についての検討・課題整理 各学校運営協議会へ周知・協力依頼 軽スポーツの推奨（月1回、学期ごと）	職員の共通理解 拠点校部活動に向けた準備 地域クラブとの連携（中体連関連含む）	

→ 拠点校・地域クラブにむけた合同部活動の検討

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

令和5年度運動部活動加入状況（1・2年生）

種目名	男子							女子						
	部員数							部員数						
	三重	清川	緒方	朝地	大野	千歳	犬飼	三重	清川	緒方	朝地	大野	千歳	犬飼
陸上競技	8							10						
水泳	1			1										
バレーボール	19							21	5	5	5	7	7	7
バスケット	10							19						
軟式野球	27	4	2	2	7	5	3	0	0	0	1	0	0	0
ソフトボール								10						
柔道	6							1						
剣道	2		4	2	2	0		3		0	1	3	2	
ソフトテニス	15						5	8						4
卓球	12	4	9	5	6		10	8	5	10	3	7		
バドミントン	0							6			1			
合計	100	8	15	10	15	5	18	86	10	15	11	17	9	11

合同チーム部活動

地域クラブ化

合同チーム部活動

集計中

サッカー　：　本年度より地域クラブ加入

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



市大会の開会式



試合前の円陣の様子（ユニフォームの新調）



合同チーム対地域クラブチームの対戦



新しく作成したネクサスの横断幕

2．実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

R4～　豊後大野市部活動改革方針　豊後大野市教育委員会

小中一貫教育校設置により全町に中学校存続
→　生徒減少による部活動の廃止が加速！



豊後大野市の運動部活動の課題
1　生徒数の減少（向こう5年で約10%減）
2　専門性、指導経験の少ない顧問

～地域とともにある学校～
学校と地域のニーズを踏まえた
総合型地域スポーツクラブへ移行

基本方針　①生徒への運動機会の保障
②平日及び休日の部活動の段階的な地域移行

＜考えられる　効果＞
・小・中学校と系統的な指導を受けることができる。
・専門的な指導を受けられる。
・教職員が、子どもに向き合う時間が増やせる。

＜考えられる　課題＞
・地域での受け皿確保
・指導者の確保
・中体連出場のためのルール

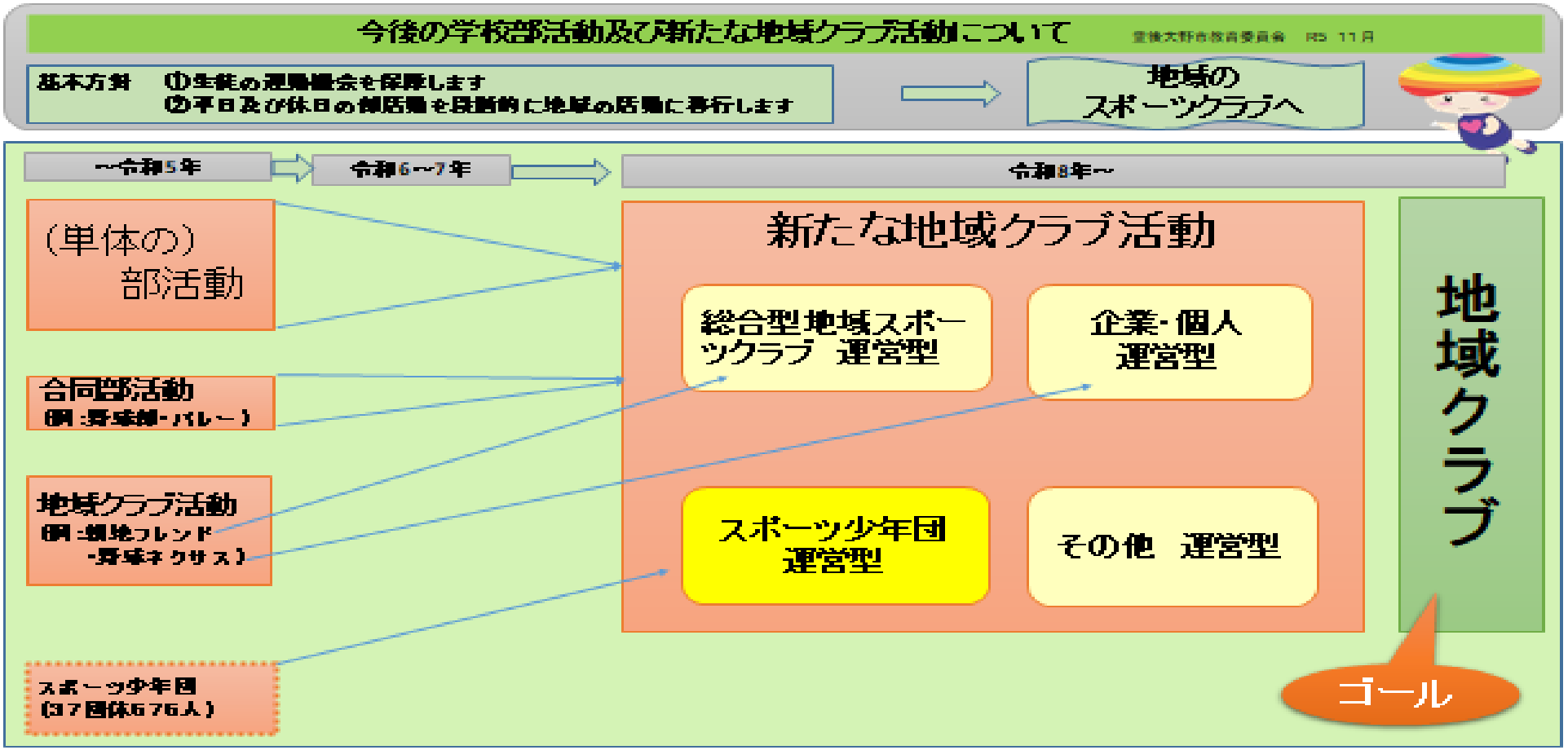
今後の流れ

ステップ1（R5）　現在の合同部活動の支援強化
ステップ2（R6～7）　ステップ1の合同部活動→拠点校
ステップ3（R8～）　休日（平日）の地域移行

地域クラブ活動

●経過：地域クラブ（軟式野球）の発足、合同部活動（軟式野球、女子バレー）の発足
●実施にあたって生じた課題：朝地地域以外の総合地域クラブの受け皿としての不都合が生じる。
●実施内容、工夫した点　：スポーツ少年団関係者への働きかけを行っていく。

3　今後の方向性



○種目ごとの団体との協議を行い、地域化に向けての課題を把握していく。課題を１つずつ解決していきながら、できる種目からの地域化を進めていく。
○合同部活動においても地域化を見据えての協議を行っていく。
○スポ少との協議を中心に検討していく。